

新所沢駅周辺まちづくり特別委員会会議記録（概要）

令和4年11月21日（月）

開 会（午後3時0分）

【議 事】

○新所沢パルコの営業終了に伴う新所沢駅周辺のまちづくりについて

【概要説明】

植竹委員長

市長、副市長におかれましては、お忙しい中、当委員会のために御出席を賜り、誠にありがとうございます。これまで当委員会では、新所沢パルコの営業終了に伴い影響が懸念される新所沢駅周辺の商業振興、都市計画、公共交通ネットワーク、公民連携について、審査や視察等の調査・研究を行ってきました。こうした取り組みも踏まえ、本日は、新所沢パルコの営業終了に伴う新所沢駅周辺のまちづくりに係る市行政の取り組みについて伺ってまいりたいと思います。

初めに、本年4月以降、新所沢地区の地域住民の皆さんにより、新所沢パルコ撤退後の新所沢駅周辺のまちづくりに関する署名要望書の配布、回収がなされ、市へ提出がされました。この一連の取り組み及び内容については、議長及び特別委員会委員も認識をしているところですが、この署名要望書を受け、市として新所沢駅周辺のまちづくりについて、どのように捉えられているのか、あるいは現時点において、どのようなお考えを持たれているのか説明を願いたいと思います。

藤本市長

署名要望書について、所沢市としてはパルコが撤退するという話を伺い、撤退しないでほしいという活動をしてきました。文書でも要望を行いました。住民もパルコ撤退を前提とした運動ではなく、撤退しないでほしいという消費者運動を巻き起こしていただければと思っていましたし、そのように働きかけた部分もあります。しかし、現実としては、パルコが撤退したことを前提として今後のまちづくりをどうするかということへの署名が回り、多くの方の署名簿とともに提出されましたので、きちんと受け止め、民間の領域と公の領域で手が出せない部分もあるとは思いますが、その中でできることをしっかりとやり、新所沢が文化的でおしゃれなまちであり続けるためにできることをやっていかなければと考えています。

【質 疑】

川辺委員

私も新所沢駅の近くに住んでいる。現実として所沢駅を中心に所沢の魅力がアップしているかのようにも見えるが、逆に言うと所沢駅周辺の一極集中で発展しているように見えなくもない。所沢市内は、所沢、小手指、新所沢という大きな3つの商業エリアがあるが、所沢駅周辺の一極集中にならないために、どのように新所沢の活気を維持していく考えなのか伺いたい。

藤本市長

所沢市内に11駅あり、所沢駅一極集中によって各駅が敗北を見ている

ように見えると言われてはいますが、現実としてはそうではないところもあると私は思っています。

新所沢駅周辺も所沢駅周辺も小手指駅周辺も、買物にはそれほど困らないという標準的な装備は備えている中で、所沢駅周辺については車両工場跡地をどう利用していくかということで駅周辺の再開発が行われました。

所沢は駅前に高層マンションが建ちやすい。市としては、所沢市の表玄関が所沢駅であり、西武鉄道株式会社が持っている土地について、住居地域にするのではなく、この地域は表玄関だからにぎわいをつくるべしと旗を上げ、所沢全体の魅力づくりとしての空間地である部分ににぎわいを持ってきたことは成功だと思っています。それによって新所沢が比較されるというのは、現実としてはそうした部分もあるかもしれませんが、所沢駅前を単なる高層マンションの駅前にしてよかったかというところではなく、所沢駅前は都市マスタープランに沿った有効活用がされていると思います。

これを前提とした上で、所沢駅周辺の一極集中ではないのかということについて、新所沢地域自体も歩いて500m以内には、日常生活では困らないだけのスーパーマーケットがあります。しかし、所沢市が目指すのはコンパクトアンドネットワークであり、歩いて過ごせるまちとして公共交通の充実においても全て駅に向かって集まるようにしています。駅前については、所沢駅前はあれでベストだと思っていますし、新所沢駅前としても、まちとしてはきちんとできていると思いますが、それでも駅前から商

業施設を撤退させないようにしなければいけないと考えているところで
す。買物客がパルコから去ったからこそ、こういう現実があるわけで、ま
ちの人々とともに駅前をどうするべきかということについて、行動で示
し、消費行動や様々な行動で是正していかななくてはならないと考えていま
す。

青木委員

市長の発言で、新所沢駅周辺は生活に困らないとあったが、周辺とい
うのはどの範囲を認識しているのか。

藤本市長

新所沢駅の西地区、新所沢駅の東地区、具体的には泉町、美原町は困ら
ないと認識しています。

青木委員

私は富岡地区だが、新所沢駅周辺の生活圏内に住んでいる。例えば富岡
地区、並木地区の人も新所沢駅が生活基盤になっており、確かに新所沢駅
周辺のまちづくりということで、多くの人が緑町や泉町、美原町、松葉町
の範囲ということで話をしてきたが、生活基盤が新所沢駅周辺にある富岡
地区、並木地区の人に対して、ある程度公共交通を充実していかなければ
ならないと思うがどのように考えているのか。

藤本市長

私もそのように思います。

小林委員 市長からはパルコの撤退ではなく、パルコを存続してほしいということで住民の方には運動してほしいと言っていたということでよろしいか。

藤本市長 そのとおりです。

小林委員 署名ということで、住民の皆さんはパルコの撤退問題から地域のまちづくりをどうしようか考えるようになったとの意見もあった。全国の例でも、パルコ存続の運動をしていても撤退が余儀なくされていることから、パルコ撤退後を考えていかなければということで環境整備を求める署名になったが、住民の意思を尊重していくことでよいか。

藤本市長 そのとおりです。

小林委員 実際は住民もパルコを存続してほしいという気持ちがあり、熱心に頑張っているが、その後の土地利用については、署名にもあるが地権者本位の利用ではなく、生活者の利便性を考慮した商業施設の誘致や、子育て世代及び女性の就労機会の確保に努めるなどが出ている。タワーマンションの建設とかではなく、市長もベットタウンの建設ではないとおっしゃっているが、内容についても同意をしているということでよいか。

藤本市長 その点については、株式会社パルコに対し撤退しないでほしいというこ

とで市も動いていました。詳細について、担当部長より説明します。

鈴木産業経済
部長

経緯につきまして、まずは所沢市として株式会社パルコに対し、令和4年6月6日付で第1回目の要望書を提出しております。その前にもパルコさんが面会にいらした際には、市長と産業経済部同席のもと、何とか存続していただく道はないのか、またどのようなお手伝いができるのかというお話をさせていただきました。そういった経緯があった中で、市長からも話しがありましたとおり、住民のほうから商店街も含めて声をお伝えしていければと考えておりました。住民個人の方からは市民の声ということで、市長への手紙等で株式会社パルコ存続を市でも頑張ってもらいたいといったお声はいただいていたのですが、まとまったお声としてはなかなか届いてきてなかったところですので、市長名として、株式会社パルコとJ・フロントリテイリング株式会社のそれぞれの会社に対し、令和4年6月6日に要望書を提出しました。

その後、株式会社パルコから令和4年8月18日付で、要望書に対する回答をいただきました。現在、まだ不透明な部分がありますが、新所沢パルコの跡地活用については商業施設等レジデンスの複合施設を基本に、市街地再開発事業の事業による建て替えの検討をこれから開始しますという内容の文書でした。引き続き商業施設として残っていただけるということでしたが、パルコとして残るとするのは難しいという回答をその時点でいただいています。

富田市民部長

署名に関しては、新所沢パルコの撤退に関する研究会の動きとも関連しているところですが、1月22日に1回目の新所沢パルコの撤退に関する研究会が開催され、その後、3月19日に2回目の研究会が開かれました。その間に、署名の内容について新所沢地区町会連合会役員で検討されたということ、新所沢まちづくりセンターに確認しています。最終的には3月の会議で内容が決定され、4月以降に各戸へ配布、6月になってから集計がなされ、その後、7月25日に新所沢地区町会連合会の皆様が市長へ面会し、署名要望書が提出されました。

鈴木産業経済
部長

先ほどの御説明の補足をいたします。先ほど6月6日の要望書に対しまして、8月18日付で株式会社パルコから回答をいただいたというお話をしましたが、株式会社パルコの担当部長が回答書を持参する形で私と産業経済部次長と産業振興課長で対応しました。口頭では不透明な部分が多いのですが、所沢市の意向も文書で見させていただいたので商業施設も含めた複合施設として検討を始めた段階です、ということでした。

また、6月の要望は、存続していただきたいという内容でしたが、その後の回答を受け、令和4年9月2日付で、パルコ営業終了に伴う産業経済部の立場で雇用対策等について、市長名により要望書を提出しました。

こちらについては、新所沢パルコの各テナント等を含めて従業員が約900名いらっしゃるので、こういった従業員の方々の継続雇用や再就職等

についても、特段の御配慮をいただきたいという内容です。また市では、自然科学研究所やICT関連企業、そういった企業に対しての補助金や交付金がありますので、今後商業施設、複合施設等を考える際に企業の誘致もしていただければ、その際はお手伝いをさせていただきたい、といった内容の要望をさせていただきました。市としては、新所沢駅前に相応しい魅力ある施設の誘致の検討を併せてお願いしますということで、9月2日付で2回目の要望書を提出しました。

藤本市長

その後、株式会社パルコの方々が来られて街づくり計画部と対応した際には、基本的には高層マンションを建てるというなお話だったので、所沢市としては高層マンションは反対である、商業施設には商業が必要であるということを伝え、人を中心としたまちづくりという所沢市都市計画マスタープランからも外れるので、高層マンションで駅前を住宅街にするのではなく、基本的にはスーパーマーケット、プラスして文化的な施設、本屋や画材屋、そのときは言及できてなかったと思いますが手芸のお店とか、パルコのよさというのは文化的なところでもあるから文化的な施設も入れてほしい、高層マンションを造っても、残念ながら住人は、昼間は所沢からいなくなってしまうので、昼間に人がいるようにしてほしい、マンションを造るのであればオフィスマンションにしてほしいとお伝えしました。

鈴木経営企画
部長

補足いたしますと、株式会社パルコの執行役員の方々が面会に来られたのは、9月9日になります。

石原委員

パルコといえば、文化的でおしゃれでにぎわう、まちの中心的役割を担ってきたということは地域の皆さんも含めて、強い思いがある。地域の皆さんも最初は無くなってほしくないという話から、今度は何になっていくんだろうという心配に関心が移ってきている。

市長の言葉の中で、民間の領域と公の領域があって、この問題に対してどういうふうに関わっていけるかがポイントだということだが、他の市町村だと民間の計画で、民間の利益でどうやるかというところに公が入りづらい。その結果、塩漬けになっていたり、やはりマンションになっているところがある。ただ、所沢市においては市も権利を持っている地権者なので、民間にお願いベースの話をしていくというより、このまちのために何を作っていけばよいのか、という協議ベースにも同じ当事者として一緒にできることは、他の市町村にはない絶大なアドバンテージだと思っている。ここを切り口として、市長にもリーダーシップを持って交渉や協議に臨んでいただきたいと思っている。日常であれば買物環境でよいが、そこにプラスアルファの魅力を感じて新所沢に人がやってくるということを思えば、この交渉については他の市町村よりも強い姿勢で臨めると思う。このリーダーシップの考え方を伺いたい。

藤本市長

地権者としてはそんなに強い立場ではありません。6%ほど道路の面積を持っていますが、そこに道路があるということは協力するもよし、道路として残すもよし、それによって利用形態が変わってきます。いずれにしても地域にとってプラスになる、また新所沢全体にもプラスになるように、リーダーシップという格好のよい話ではなく、権力も持っていませんが、言われるがままではないよう努力していきたいと思います。

杉田委員

住んでいる方が生活には困らないだろうという発言があったが、パルコがあったから引っ越してきたという人もいると聞いている。例えば、私は柳瀬地区なので基本的には遠く、新所沢のスーパーにはほとんど行ったことがないが、パルコにはたまに行っている。パルコというのは住んでいる人は当然だが、もう少し広範囲から、わざわざ車や電車という手段を使ってお客さんが集まると思うが、それがなくなる。石原委員の発言にもあったが、新所沢駅周辺の魅力が減るということである。生活だけであれば困らないという気はするが、魅力が減るところでは寂しいという部分かと思う。市民から市への署名要望書が7月25日に提出されたが、市が株式会社パルコへ要望書を提出したのは署名要望書をもらうよりも前の6月6日で、それに対して8月18日に回答があった。8月18日に来られた株式会社パルコの方に対して、署名がいくつあったとか署名要望書の内容についての説明はしたのか確認したい。

鈴木産業経済
部長

8月18日は、6月に市が株式会社パルコへ提出した要望に対する回答を株式会社パルコの担当部長が市にお持ちいただいただけなので、その辺りはこちらから説明をするタイミングではなかったと思いますので、いたしておりません。

杉田委員

署名要望書については、株式会社パルコ側かJ. フロントリテイリング株式会社側に伝えていないのか。

鈴木産業経済
部長

特に伝えておりません。

杉田委員

私としては、そこは伝えるべきだったのではないかと思う。署名を集めた会の方々の意思が、株式会社パルコやJ. フロントリテイリング株式会社に伝わっていないということにならないか。

藤本市長

8月18日のことは私も分かりませんが、7月25日に、私は署名要望書を直接いただいています。私が出たところは伝えているので、8月18日に伝えていないとしても、9月2日に伝えています。伝えないはずがないので、もしかしたら電話で伝えているのかもしれない。

杉田委員

9月2日に、市が雇用対策や企業誘致について要望したということだ

が、そこと市民からの署名を含めての要望になったと理解する。また、同日には高層マンションで進めると言われたということだが、8月18日には商業施設と住宅だったのが、9月2日には商業施設がなくなったということか。

鈴木産業経済
部長

9月2日は、9月2日付で市長名の新たな要望書を提出したということで、特に面会はしておりません。そこで産業経済部として、市の雇用対策や企業誘致、立地に関し補助等の相談を受けることができるので、何かありましたらお声掛けくださいという内容の要望書を9月2日に提出しました。

杉田委員

株式会社パルコ側やJ. フロントリテイリング株式会社側で把握している直近の計画は、高層マンションのみということなのか。

鈴木経営企画
部長

先ほど9月9日に市長面会があったということでお答えしましたが、その際には詳細まではお聞きしておりません。商業は採算が取りにくくなっているということでしたが、特に何をという話はしていません。

藤本市長

再度、御説明いたしますが、7月25日までは所沢市としては撤退しないしてほしい、その後住民からも撤退しないでくれと言ってもらい、さらに強く伝えていこうと思っていましたが、7月25日の署名要望書では、撤

退しないでくれということから方針が変わり、撤退するのであればこういうものをということでしたので、こちらで伝えています。その後、9月9日に株式会社パルコの関係者が来庁しました。そこで、経営企画部長が言うような形で話がありました。その時には、こちらとしては文化的な施設をとか、魅力ある施設をとか、商業施設をとか、また9月2日付の要望書の内容であるパルコで働いている人がきちんと雇用されるよう雇用の面倒をとか、企業でもというような話をしました。9月9日は、9月2日の市からの2回目の要望書に対して来たのか、8月18日のときの関係で来たのか分かりませんが、商業施設はどうもという話でした。私も商業施設を1階、2階に入れるのは、商業地域なのでそれは当然ですが、その中に文化的な施設を入れてくれと言いました。そして、上はマンションではなくてオフィスにしたほうがよい。どちらにしる、そういう提案ではなかったものでそれは困ります、まちづくりの方針から違いますと答えましたが、その時のあちらの様子としては、スーパーすら競合しているからという雰囲気でした。

長岡委員

パルコの関係では、様々な部署が関連してくると思うが、気になるのが市役所の人事異動である。例えば、一つの部署が旗振り役になった場合、異動により一からというか、どこから手を付けてよいか分からないということが発生してしまうと思う。今後、どこの部署が旗振り役となっていくのか。職員が異動してしまう、そこはどうフォローしていくのか。他のま

ちづくりを見ていくと民間企業を入れて、その方が中心にまちづくりに関わってというところがあると思うが、今後、所沢市が主体となっていくのか、民間企業に委託という形でいくのか、こういった方向性なのか伺いたい。

藤本市長

部署については他にも開発関係もありますし、様々な関係がトータルで関わってきますので、今のところ市全体で対応していきたいと思います。民間の力を借りてということですが、所沢市としてはそこも含めて、どのような方法がとれるかということは検討しているところです。

中村副市長

人事異動の関係は、組織で動いていますので人事異動があってもそれはドキュメント等で残っています。その担当した人がいなくなったのでゼロから出発ということではなく、その辺はしっかり組織対応をしています。

また、今日もそれぞれ担当部長が来ていますが、今の時代はどこの部署だけがやるということではなく、横断的にやっていることも多く、様々な関係部署が連携しながら行っております。その場合の庁内のまとめ役は、私が調整する場合がありますので、総合的な計画であれば経営企画部長がやりますが、横断的な場合は私が座長になっています。今後につきましてもそういった形でできればと思います。

長岡委員

今後どうなっているのかというのを、市民は副市長に聞けばよいのか。

中村副市長

事務的な流れの調整は私が行いますが、全体の指導、政策をやっていくのは市長になるので、基本的には市長へのお伺いの中で私たちはやっておりますので、事務的な職員を使ったところは私がやっているということで御理解いただければと思います。

石原委員

事業者がかたくなにタワーマンションにこだわっているというのが今回分かったが、新所沢駅前の地区にタワーマンションができると、働きに行く人が住むようなコンセプトになると思う。あの地区は、既に保育所も児童クラブもかなり定員を超えているような状況で、事業者がかたくなにタワーマンションということであれば、まちの人への影響がもろに出る部分に早めの準備をしていかなければならない。今日は出席されていない部門の部長だが、早めに議論、認識をしてもらわないといけないと思うので、この辺も含めて連携について伺いたい。

中村副市長

保育園や児童クラブ等は現在、計画に沿って進めています。今後は、件数も考慮していかないといけないので、委員のおっしゃるようなことがある場合についてはしっかり検証しながらどういったことが必要か、担当のほうへ私から指示していきたいと思います。

川辺委員

何年か前に所沢駅前の旧ダイエーが撤退し、市の中では残念なニュース

が流れて、しかし、今現在はスーパーのオーケーマートやミスターマックスという人気のあるお店が入っている。パルコがなくなり、何年後かに商業施設ができるに当たっても、やっぱりよいお店に来てもらうことが必要だと思う。例えば、跡地に商業施設なりレジデンスの複合施設なりができるに当たって、新所沢駅西口から雨に濡れないでパルコの跡地まで行けるような設備を市で整えてこういうことをやるので、ぜひ商業施設にしてくださいとか企業の誘致をしてくださいとか、先ほど産業経済部から補助金の話があったが、ハード面で市ができる可能性はないのか示していただきたい。

埜澤街づくり
計画部長

デッキというお話でしたが、仮に一般の民間だけでデッキが整備できないかと考えますと、例えば小手指駅北口のように駅からマンションにつながるようなデッキというのは道路管理者ですとか、西武鉄道株式会社等の関係機関との調整が整えば可能であると考えられます。仮に公共的な事業で再開発という形になるかと思いますが、デッキを再開発の中で造ろうとする場合になりますと、それは法定された規定があり、県で再開発区域の位置づけや所沢市都市マスタープランの位置づけの手続きを踏んでやることになると思いますが、やる場合につきましてもお金がかかることですから、市の全体の事業を見て、その中で検討していくべきものと思います。

青木委員

市長がにぎやかで活気のあるおしゃれなまちにしたいと言っていたが、

まだパルコがどうなるか分からない状況で、仮定の話をしている訳だが、所沢駅西口に大分予算がかかっているという印象がある。その予算を少しでも新所沢に持ってきていただき、先ほどのデッキを造るだとか西口ロータリーを整備して人が集まるようなおしゃれな駅前にするとかそういったことに予算を回していただきたいというのが本音だ。所沢駅ばかりやらないで、新所沢駅前ロータリーを今後パルコがどうなるか分からないが、それに合わせて一体的に開発をしていただきたい。そのくらいやらないと新所沢はどんどん衰退してしまうと思う。所沢駅前に大型商業施設ができてしまうと、絶対道路が大渋滞し、あの周辺に住んでいる人はたまらないと思う。新所沢をそんなまちにはしたくないと私は思っている。住みやすく、利便性があって、おしゃれなまちで、オフィスビルがあり、できれば昼間働いている人が近くのお店で食事をしたり、仕事が終わった後に飲んだりしてお金を落とせるまちにしていっていただきたいと思っている。そういった予算をもう少し新所沢駅にもってくるというようなことで、市長の考えを聞きたい。

藤本市長

ロータリーについては、今は小さいロータリーで、平成14年頃に新所沢駅西口というのは駅前の広場造りについて議論されています。話が動きそうだったときもありました。結局駅を降りて斜め右側、斜め左側にそれぞれビルができてしまった。公団の開発と併せて駅前広場をどうするかというのがありましたが、ぼしゃった。その中には女神像を残してほしいと

いう意見があつて、昔の新所沢のイメージを消したくないというような様々な意見がありました。青木委員の思いを貴重な御意見として受け止めておきたいと思います。

杉田委員

パルコ周辺を含めた再開発を、一応検討すべきではないかというのを伝えたかった。パルコの跡地に最終的にマンションが建つにしても、現在ある建物を壊して建て替えるわけだから、少なくともまだ1年以上あるので、新しくなるためには5年くらいはかかると思う。まだいろいろ検討する余地はあると思って、先ほども出たが、市の持つ土地が6%ということで少ないといえば少ないが、あるかなという気もする。そういったものがあるわけだから、もう少し向こうが言うことを聞くということだけでなく、少し話し合いをさせてくれということで、いろいろな提案を、例えばもう少し広げたこの辺も再開発できないかとか、そんなような検討はしてみても、相手方にも相談をして、何かこちらの要望を聞いてもらえるような新たな開発を目指してほしい。例えば6%の部分も、所沢駅周辺では広場のようなものも作られて、イベントもやっているんで、市としては6%は広場にしたいとかそういう市の要望を、話し合いをもってもらって提案できないかというのを検討してほしい。

藤本市長

6%あるのでそれを広場にするのは簡単だと思います。しかし、求めているのはそれではありません。区画整理となれば何十億という支出になり

ます。所沢市の財政状況とか様々あり、新所沢にかけるのであれば富岡、柳瀬、山口はとか、そうした中であって本来的にはまちを造るのは、新所沢はURで分譲と団地を造りました。その後は、それぞれの住民たちが造ってきました。焼き鳥屋や飲み屋さんがたくさんありました。今はそれもなくなってきました。でもそのうち若い飲み屋さんたちが工夫をしながらお店を出すようになり、色々な変遷があって、その中で商品を買うのもアマゾンか何かで買うようになり、変化があっての今で、その途中には西友もコープも榎町の西友もヨークフードもマミーマートもロピアもできたという大きな変化がたくさんあって、その中であって消費行動が変わって、今のまちが動いているのだと思います。願わくは、住民の人たちが一緒になってやった動き、まちづくり協議会で行われたというのは藤村先生の話も含めて、住民がまちをどう造っていくのかというのが、三浦展さんも含めて一貫したテーマだったと思います。その中でいろいろな取組をされて、中央公園をもっと使っていくことによって人が集まれば、そこからまちを活性化できるのではないとか、いろいろな運動に展開されているのではないかと思います。単なる区画整理をして再開発をして、市がそこに入っていくのではなくて、むしろまちを造るのは市であり住民なんだという中で、落としどころというか、よい展開ができればよいなというふうに、具体的に今なんだというのは分からないですが、あと少しありますので探っていければと思います。

杉田委員

市長が言っていることもよく分かるし、私が言っているのもお金をかけろと言っているのではなく、もちろん市の考え方や住民の考えを取り入れて、パルコの跡地を利用してほしい。そのためには権利が少ないかもしれないが、住んでいる住民の意見もあるし、そうした人たちと話し合ってもらえるような場を設けるといことと、市側からこういうことができないかということをつく提案し、何か取り入れてほしいと、ただ文書で渡すとかだとどうしても真剣さが伝わらないというか、少し時間をいただいて真剣に話し合う時間は取れないのか。

富田市民部長

新所沢パルコの撤退に関する研究会については、市民部としてはその地域にお住まいの住民の皆さんが自らの意思でその研究会の必要性を考えて立ち上げた、自主的、自律的な活動だと思っており、それについて現時点で行政がこういう方向でお願いしますとか、そちらの方向ではなくてということはおかわり方としては正しくないかと思っております。いずれにしても、ぜひ同じ方向を向いて一緒になって取り組んでいけたらと思っております。

また、新所沢まちづくりセンターが事務局という立場で関わっていますので、逐次、その辺はどういうことが行われているかという情報を収集しながら、必要なタイミングで連携に努めてまいりたいと思います。

長岡委員

国立リハビリテーションセンターの先生から話を聞く機会があり、新所

沢パルコというのは障害のある方が買物をする場としても、大変貴重な場所であったと聞いた。そこで働いている方が、障害のある方が買物をするときに迷っていたらすぐに声をかけてくれて案内をしてくれるという、大変ありがたい場所ということだった。パルコがなくなると大変残念でならないと聞くので、タワーマンションになるのか商業施設になるのか分からないが、もし企業誘致がある場合は障害者に優しい活動を残してほしいと思うが、その辺でもう少し市が関与できないか。

中村副市長

障害のある人もない人も共に生きる社会づくり条例により、市の責務ということもあります。昨今の時代では、ユニバーサルデザインであるとか、弱者へ配慮するということが標準装備のようになっていますが、市が全く関与しないということはありませんので、施設整備であるとかそういったときにはしっかりチェックをしながら、ユニバーサルデザインになるようにしていきたいと思います。

小林委員

駅前を再開発しようとしたのを再整備ということでもいいのかと思っており、高層マンションについては住民からも何とか避けてほしいという願いも入っている。所沢の住民として見たら、銀座通りの高層マンションが並んでいるのは圧迫感があり、歩くとビル風が凄くて買物しようという気にもなれない。いい加減に高層マンションはもうよいと、私はそういう気持ちがある。パルコの中には文化的な本屋や映画館、画材屋があり、フィ

ットネスクラブがあったり、総合的に文化的な要素があるので、パルコが撤退しても実質的に実を取るような商業施設になっていてもらいたい
と思い、市長にはそうお願いしたいし、ぜひ高層マンションは何とか避けるよう頑張ってもらいたい。

藤本市長

私もそう思っていますので、一回は突き返しています。ただ採算を取るという民間企業の立場を考えると、今のところ利益としては高層マンションというのは分かるところです。そうした中であって、こちらとしても関わるべきところは関わっていきますし、まちづくり協議会の皆さんからも御意見をいただいていますし、このように特別委員会もできていますし、そうした中であってできる限りしていきたいと思っています。

石原委員

大きなお店がなくなると小さいお店に影響が出てしまって、まちが減退していくときに小さいお店も一緒に減退していくと、まちの火が消えてしまうと思う。この流れの中で、新所沢は個性的で面白い食べ物屋さんもあればパン屋さんもあり、これを魅力に感じている住民が非常に多く、来てくれる住民も多い。今後どうなるか分からないが、営業は減っていつてしまうと思う。空き家店舗出店の補助や企業誘致の減免等をやっていたらいいと思うが、この地区に流動的に起業をアシストするようなものかどうか、減免をするようなものかどうかという発想で、経済の中で新所沢駅周辺をある種、特区のようなイメージにして仕組みを考えていくような、これは

何十億円もかかるような話ではないので、こういうところに力を入れていったらまちの形態というのは保てるし、発展もできると思うが、その辺の展望を伺いたい。

鈴木産業経済
部長

常日頃、産業経済部の特に商業観光課では商店街の皆さんといろいろな話をしながら、魅力ある商店街ができるよう補助等を考えています。また、空き店舗の問題についても産業振興課では、今までコロナの影響でできていなかったのですが、夏以降から各金融機関などに伺って、起業を希望する方から相談があった際には声を掛けてほしいという内容で、市内や近隣の金融機関に回って誘致等の相談に来られた際には御紹介できるようなピーアールに回っています。今後も進めていきたいと思っています。

植竹委員長

この際、委員として質疑したいので、副委員長と交代します。

石原副委員長

それでは、委員長の職務を行います。

植竹委員

今日は傍聴に、それぞれ新所沢の地元の自治会の方々がいらっしゃっているところだが、まさに藤本市長の地元が新所沢ということで、パルコの営業終了に伴い、様々な影響が懸念されているところで、今日は多くの質疑があったが、改めて市長が描く新所沢地区の将来像はどのようなのか、もしくはどのように取り組んでいく方向性で考えているのか伺いたい。

藤本市長

私も議員時代を含めて新所沢で育って、新所沢で市議会議員をやり、新所沢で県議会議員をやり、新所沢から市長になり、新所沢への思いは一番強いです。そうした中であって、様々なまちの変化、産業構造の変化等がありますが、できる限りのことはきちんとやり、文化的でおしゃれで、生活できてみどり豊かで、今取り組み始めていますが、公共交通についても交通不便地にセッティングするのではなく駅につなげていくので、その路線近辺は皆さん便利になるはずです。新所沢と小手指間の往復のところバスも、運行を開始しています。今まで住んで良かった、これからも住んでいきたいと思える地域に、総合力を使って力を入れて何とかしていきたいと思えます。

石原副委員長

それでは委員長と交代します。

【質疑終結】

植竹委員長

以上で質疑を終結します。市長、副市長をはじめ、執行部の皆さまにおかれましては、お忙しい中にもかかわらず、当委員会のために御出席をいただき、誠にありがとうございました。充実した特別委員会審査となりましたことに、委員会を代表して心からお礼を申し上げます。皆さま、お疲れ様でした。

散 会 (午後4時15分)